

平成30年度 鳥栖市立麓小学校 学校評価結果

1 学校教育目標 「ふるさとを誇りに思い、やさしく・かしく・たくましく生きる麓っ子の育成」 ※鳥栖西中校区の教育目標 小中9年間を通して豊かな人間性と自立心を培い、生きる力をもった児童生徒を育成する	2 本年度の重点目標 ◎子どもの「学び」を鍛える・学力向上 ・国語科授業による言語力と豊かな日本語の獲得。 ・電子黒板とデジタル教科書の効果的な活用。 ◎子どもの「心」を鍛える ・鳥栖西スタイル「三訓」「あいさつ」「時間」「清掃」を大切に指導を行う。 ○子どもの「体」を鍛える ○教師力向上・地域連携
---	--

達成 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

3 目標・評価

①子どもの「学び」を鍛える

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・学習規律の定着	・「学習のめあて」の内容や掲示場所を検討し、授業や家庭学習への取組の指針とする。 ・「チャイム着席」「はいの返事」などを90%超にし、習慣化する。	・学習のめあて等を全校統一して掲示し、指導するとともに、自学がんばり週間などで家庭学習の定着を図る。 ・「麓っ子ががんばり週間」を設定し、「ふもとっ子ががんばり表」で自分の学びを振り返らせる。	A	・学習のめあてや教室前面の掲示物を全校で統一するなど、授業に集中して取り組める環境を整えた。 ・「麓っ子ががんばり週間」には、教室黒板にカードを掲示し意識づけを図った。「ふもとっ子ががんばり表」で、授業に関わる学習規律について毎日自己評価させることで、学習規律が定着してきた。	・ふもとっ子ががんばり表への取り組みなど、学級で気になる児童に着目し、個別の支援に取り組むとさらに伸びが期待できる。個人目標を設定して取り組ませるなど工夫が必要である。
		・基礎・基本の定着	・スキルタイムの充実を図る。 ・県より配布の家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の定着を図る。 ・学力向上を意識した学習を仕組む。 ・読書量1人平均年間80冊以上を目指す。	・ことばスキル、すくすくタイムを通して既習内容の定着を図る。 ・家庭学習の手引きを全家庭に配布し、学級懇談会や学年通信・学級通信等で保護者に協力を呼びかける。 ・本時のめあて、まとめを意識した授業を行う。言葉や式を使って自分の考えを表現させる。	A	・ことばスキル、すくすくタイムを通して既習内容の定着を図ることができた。 ・家庭学習の手引きを全家庭に配布し、家庭訪問で、個別に話しをし、学級懇談会や学年通信・学級通信等でも保護者に協力を呼びかけた。 ・全教科で、本時のめあて、まとめを意識した授業を行った。言葉や式を使って自分の考えを表現させるようにしてきたことで、表現する力が高まってきている。 ・読書量一人平均80冊以上を達成した。	・既習内容の確実な定着を目指し、基礎基本を繰り返し指導していく。 ・「自学がんばり週間」の取り組みを続け、自主的な学習習慣をつけていくようにする。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・教員のICT利活用能力の向上	・ICTを活用した授業に取り組む。 ・電子黒板の機能について研修し、授業に生かせるようにする。	・全教員がデジタル教科書やデジタルビデオカメラを活用した授業に取り組む。 ・ICT活用の研修を実施する。 ・電子黒板を活用し、授業導入や考えの練り合い等で積極的に取り組む。	B	・ほとんどの教員は、デジタル教科書や実物投影機を積極的に活用し、児童の学習に役立てることができた。 ・ICT利活用向上の校内研修を行うことができなかった。 ・国語と理科のデジタル教科書の起動や読み込みにかかり、処理落ちすることが多いため、使用を避ける場合が多い。	・電子黒板をさらに活用するために、据え置きパソコンの設置が望ましい。 ・国語と理科のデジタル教科書の改善が必須である。 ・ICT利活用向上の校内研修を行う。

②子どもの「心」を鍛える

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・あいさつ、返事、はき物そろえの徹底 ・無言掃除の徹底	・「児童生徒は、あいさつ、返事、無言掃除がきちんとできている」と回答する保護者を70%以上、教職員・児童生徒を80%以上にする。 ・昇降口の履き物は100%、トイレのスリッパについては90%以上そろっている状態を目指す。	・「あいさつ、返事、無言掃除」についての指導を、年度初めに全校集会、学級指導を通し徹底する。また、年間を通して全校集会等の際に「あいさつ、返事、無言掃除」についてふれ、意識の継続を促す。 ・履き物が並んでいるかを全校放送で知らせて、児童・職員の意識を高める。	A	・アンケートの結果、あいさつ、返事、無言掃除、はきものそろえのいずれの項目も高い数値で目標達成ができています。この中で、保護者と教師が最もできていないと感じているのが返事である。昨年度も人任せになっていると記録していたが、まだまだその傾向にある。はきものは、昇降口だけでなくよくできている。	・あいさつの声はよく出ているので、相手の目を見ながら進んであいさつができるように指導していきたい。返事については、我々教職員も児童の手本となるような返事をして、学校全体で意識の向上を図っていきたい。
		・道徳の時間、人権・同和教育の充実	・「いじめ・いのちの日」の取り組みとして、人権週間に全学年生命尊重の授業を行う。 ・年間に1回以上、全ての学級で保護者や地域の方が参観することが可能な「ふれあい道徳」の授業を行う。 ・年間指導計画を見直し、より児童の実態に応じた指導計画作成を目指し指導に生かす。	・人権週間に人権学習、人権集会を実施し、全校児童の人権意識の向上を図る。 ・年度初めに、全職員がふれあい道徳について共通理解し、鳥栖市教育の日を中心とした計画的な実施を行う。 ・各学年ごとに年間指導計画を見直し、学年の実態に応じた年間指導計画作成を行う研修会を計画する。	A	・保護者や地域の方々が参観できる道徳の授業を全学級で実施することができた。授業を通して学校で指導したことを理解してもらうことができた。 ・人権週間には、人権についての話を全校児童にすることで、意識を高めることができた。また、人権標語に取り組むことで、友だちに優しく思いやりの気持ちをもって接することの大切さを考えさせた。 ・教職員が意識して、人権・同和实践集を活用し実践することができた。	・人権・同和教育資料を活用して、指導を継続し、実践しやすい環境作りを努めていく。
	・人や自然とふれあう体験活動	・麓地区の自然と人のよさについて学び、ふるさとのよさを意識する児童生徒の割合を90%以上にする。	・「総合的な学習の時間」等を活用し、学校と地域連携コーディネーターとの連携を図り、自然体験実施計画に沿って、農業体験を行う。 ・麓ふれあい祭りで、地域の方々と共に昔遊びなどの体験活動を行う。	A	・人や自然とのふれあいを深める活動(栽培活動・田植え稲刈り・焼き物作り・麓ふれあい祭り)などを地域の方に協力してもらい、体験でき、ふるさとのよさを意識させることができた。 ・体験活動や地域の方々とのふれあいながら学習したことを楽しむことができた児童は約97%であった。	・今後も地域の方と協力をして、学校全体で共通理解して進めていく。	
	●いじめの問題への対応	・早期発見、早期対応体制の充実 ・いじめといのちを考える日の取り組みの充実	・いじめ等の問題行動の早期発見、初期対応に努める。 ・毎月10日に、心のアンケートを実施して、児童が安心して学校生活を送れるようにする。	・いじめ防止対策委員会を年2回開催する。 ・毎月10日「いじめと命を考える日」に児童対象のアンケートを実施し、児童の状況や気持ちを把握し、すぐに対応する。 ・得た情報にすぐに対応し、全クラスがアンケート用紙を職員室に保管して、児童の変容をつかむ。	B	・毎月10日「いじめといのちを考える日」に児童対象のアンケートを実施し、児童の状況や気持ちを把握し、すぐに対応を行った。全クラスのアンケート用紙を職員室に保管して、児童の変容をつかんでいった。 ・まだ心ない言葉をかけたり、態度をとったりする児童がいるので、指導を継続していく。	・アンケートの実施と共に、日ごろの児童観察により、児童の変容に気を配っていく。 ・いじめ問題を未然に防止するために、グループエンカウンターなどを取り入れた居心地のよい学級づくりに取り組んでいく。

③子どもの「体」を鍛える

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
		・よりよい生活習慣の定着	・給食後の歯磨き実施率を100%にする。 ・目標就寝時刻を守る児童を70%以上にする。 ・毎月1日の「ノーテレビノーゲームデー」の取組率を80%以上にする。	・「ふもとっ子ががんばり表」を活用し継続的な指導を行う。 ・毎月ノーテレビノーゲームデーを実施する。 ・家庭への啓発強化のため、まちコミで知らせたり、親子で楽しく過ごせるアイデアを紹介する。	B	・給食後の歯磨きについては、担任の指導やチェック表の活用などによって概ねできていた。 ・就寝時刻については、目標を達成できた。 ・ノーテレビノーゲームデーの実施率については、目標を達成できた。	・引き続きがんばり表を活用し、継続的な指導を行う。 ・保健や学活の授業を計画的に行い、歯磨きや睡眠の重要性を引き続き指導する。 ・引き続き、前日の担任の話や活動の意義を話すことで、ノーテレビノーゲームデーの周知徹底を図る。

教育活動	●健康・体づくり	・体力の向上	・天気が良い日は95%以上の子どもが1日1回は休み時間、外で遊ぶようにする。 ・スマイルタイムを毎月1回以上、実施する。	・学級で全員一緒に遊ぶ日を設定したり(週1回程度)、昼休みや業間休みには、外遊びの声をかけをしたりする。 ・スマイルタイムを通して、運動の楽しさを味わわせたり、遊びの幅を広げたりする。 ・学校からの各種便りや、新体力テストの結果を知らせることで、保護者・地域への啓発を行う。(学校だより、給食・食育だより、保健だより、学級通信など)	B	・各学級の係活動を中心として、外遊びの日を設定することができた。多くの児童が外遊びを楽しんでいた。 ・スマイルタイムを実施することで、様々な遊びに取り組むことができ、児童の遊びの幅は広がったが、月1回以上の実施はできなかった。 ・各種便りによる啓発活動は、徐々に効果を現しつつある。	・係活動を奨励したり、担任と一緒に遊んだりする日を増やす。また、新体力テストの結果の分析したことを子ども達に話したりすることで、外遊びが重要であることを教える。 ・月1回以上のスマイルタイムを継続する。 ・引き続き各種便りによる啓発活動を行う。
------	----------	--------	---	--	---	---	--

④教師力を磨く

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○危機管理体制	・危機管理意識の高揚	・危機管理マニュアルを全職員に周知し、危機的事象発生時の役割を職員の100%が理解し児童生徒の安全確保を確実に行う。 ・校内外の危険箇所を知らせ、児童生徒の安全に関する意識を高める。	・危機管理マニュアルの内容を全職員で確認し、児童の安全を確保できるようにする。さらに、危機管理マニュアルの携帯版も作成し、危機管理に対する対応を徹底する。 ・危機を想定した避難対応訓練を計画的に実施する。(火災、不審者、地震) ・施設設備の定期的な安全点検を行い、危険を伴う場合は迅速に対応する。	B	・リスクの軽減と事案が起こった場合の対応で被害を最小限にする危機管理マニュアルの簡易版(A41枚)を作成・周知し、危機管理の徹底を図った。 ・避難対応訓練を計画どおりに実施することができた。 ・月1回の安全点検を漏れなく行い、危険個所に迅速に対応(修理、交換等)することができた。	・定期的な危機管理の研修の場が必要である。特に事件事故が起こった場合の対応の手立てを共通理解しておかなければならない。
	○特別支援教育の充実	・個に応じた支援体制の確立	・特別支援学級在籍児童・通級指導教室利用児童・診断を有する児童について、個別の指導計画の作成を100%にする。 ・特別支援教育に関する職員の意識・スキルの向上を図る。	・該当児童について、個別の指導計画を作成し、それに沿って指導・評価・次の目標設定をする。 ・学校生活支援事業(巡回相談)を活用し、指導の支援・指導にいかす。 ・特別支援教育の視点での教育活動ができるように職員研修を行う。	B	・特別支援学級在籍児、通級指導教室利用児、診断名を有する児童について、個別の支援・指導計画を作成した。 ・を講師招聘して職員研修会を実施した。 ・必要に応じて、保護者面談、児童観察、保護者・職員への情報提供を行ったり、支援会議、ケース会議を開いたりした。そうすることが、保護者への啓発、信頼関係構築、児童にとつてのよりよい学びの実現、適正就学、職員のスキルアップにつながった。 ・全職員が特別支援教育の充実を図る取り組みを行った。	・個別の支援・指導計画を確実に次年度へ引き継ぎ、切れ目のない支援に生かす。 ・要支援の児童の対応について全校的な体制作り。今後、学校だけでなく、SSWや、福祉、外部機関とも連携し進めて行くことが増えていくことが予想される。誰が、いつ、どのタイミングで、どう動くという計画を職員が共有する必要があると感じた。
	○教職員の資質向上	・授業技術向上 ・授業づくりのステップ1・2・3の活用 ・UDの視点での環境整備を行う。	・お互いの資質向上のため、1年間に1回以上公開授業を行う職員を100%にする。 ・全学級においてUD教育の視点での教室環境を整える。	・研究授業を学期に1回以上実施し、授業研究会を行うことで授業力アップにつなげる。 ・UD教育の研修会を開催し、授業内容や教室環境を整える。 ・全職員で共通して取り組むものを明確し、その徹底を図る。	A	・全職員が、校内研究のテーマにそった研究授業に取り組むことができた。また、全ての授業で研究会を行ったことで、授業力アップにつなげることができた。 ・研究発表会等を通して、UDでは、教師が互いに事例を紹介したり、UD実践をレポートにまとめたので、教職員全体の意識もさらに高まった。	・UDの視点で全職員が共通の意識に立っての取り組みの定着を秤ながらよりよい改善策についても検討を続けていく。 ・UDの視点を取り入れた授業に積極的に取り組む。さらに、その具体的な視点の追究を研究の内容に盛り込む。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○地域との連携	・地域連携活動の推進	・地域と連携した活動「麓ふれあい祭り」の満足度の割合を90%以上に上げる。	・地域との連携を深め、「麓ふれあい祭り」の内容を検討し、より充実感を味わえる企画とする。	A	・児童への学校評価アンケートにおいて「地域の方々に教えてもらう学習を楽しめたか」の問いに「楽しめた、だいたい楽しめた」と答えた児童は96.6%だったことから「麓ふれあい祭り」の満足度は目標を達成できたと言える。 ・99.4%の保護者が麓ふれあい祭り等の体験活動は麓小のよいところだと答えていることから、次年度も継続して、地域と連携しながら取り組んでいくべきである。	・高い評価を維持しており喜ばしいが、PTA本部組織や学校職員が変わってもいかにスムーズに接続、継続させていくかが大切。開かれた学校推進委員会が核となっているシステムを1学期のうちに学校職員がしっかりと共通理解して2学期の「麓ふれあい祭り」に向かうことが重要である。
	○小中一貫教育の推進	・鳥栖西スタイル「三訓」「あいさつ」「時間」「清掃」を大切に指導の充実 ・小中学校職員の相互理解	・研究企画委員会・拡大協議会を月一回程度開始し、取り組みを具体化していく。 ・3校合同研修会を年2回以上行う。	・4月当初に年間計画を立て、企画委員会等を行う。また、そこで決定した内容を通信で三校の全職員に紹介し、取り組みを充実させる。 ・8月と12月の三校合同研修会を実施する。 ・11月の研究発表会の準備を万全に行う。	A	・鳥栖西中區でUD教育ダイジェスト版を作成し徹底に取り組んだことで、教職員のUD教育への意識も高まりと推進ができた。 ・8月には情報交換、12月にも活用力向上で三校全職員で充実した研修ができた。 ・麓っ子ががんばり週間の取り組みを通して学習規律や生活規律の定着につながった。 ・中学校の体験授業や部活動体験、あいさつ運動に充実して取り組むことができた。 ・11月の小中一貫教育研究発表会では、内容・運営共に大成功で開催するできた。	・いろいろな取り組みが形骸化しないようにする必要がある。児童に取り組む意味を理解させ、意識を持たせ、実践へとつなげていくための手立てを工夫していく必要がある。 ・研究発表会が終わった翌年が大事である。年間の計画をしっかりと立て、前年度の取組をより一層充実させるような具体的な提案を行っていく。 ・三校教職員で共通認識を図れる通信を発行し意識啓発に取り組む。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・負担感、多忙感の解消 ・校務処理の効率化	・報告、連絡、相談を密にし、課題に対してチームで取り組み、負担感を軽減する。 ・見通しをもって業務に取り組む環境を整備する。 ・各担当業務の情報共有を強化する。	・児童や保護者との話し合いは複数対応を原則とし、協議しながら、統一した方針で対応する。 ・指導教諭と連携し、提出文書などの締め切りや会議の日時などを常に示しておき、業務の見通しを持てるようにする。 ・サーバーの共有フォルダーを整理し、業務データの共有化を図る。	B	・基本的に生徒指導等は、複数対応でき、チームで共通理解を図りながら、教育活動ができた。 ・行事や提出文書締切等の日時は、月行事、週行事、連絡会配布プリント及び行事黒板などで、見通しをもって業務に取り組むことができるようにした。 ・業務データを整理し、ルートディレクトリーには、番号付きのフォルダーだけを置くようにして、業務データを分かりやすく活用できるようにした。	・定時退勤日の業務終了時刻を守ることができないことや休日に業務をする職員もいた。時間外業務を削減するために業務の見直し・削減・効率化の手立てが必要である。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○学力の向上については、学習規律、学習習慣の定着を目指してきた。読書量も目標の一人平均80冊を達成できたが、個人差もあり、継続して取り組む必要がある。
○いじめ・いのちを考える日の取り組みだけでなく、児童の生活の様子を教師全員で細かく見ていくようにしたり、児童アンケートを実施して実態把握に努めたり、定期的な保護者へのアンケートも実施したりして、学校・児童・保護者が一体となって「いじめを許さない」機運を高めてきた。人権集会や全校集会での取り組みを充実させあたたかい心情を育て、絶対いじめが発生しないように指導するとともに、起こった場合は全職員一丸となって早期に対応・解決できるように努めている。
○活用力向上の公開授業及び小中一貫教育の研究発表会を開催した。UDの考え方を取り入れた指導方法や教科「日本語」の指導、対話的な学びの充実、国語科における活用力向上の指導法の在り方を日々、実践してきた。次年度も継続して取り組んでいく。
○地域連携活動の推進に関しては、ほとんどの保護者が「麓小のよいところ」とであるとアンケートで答えている。本校の特色でもあるので、「開かれた学校推進委員会」と連携し、さらにこれらの取り組みを深化させたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目